

3. 経営管理体制

当JAは農業者により組織された協同組合であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選任された理事により構成される「理事会」が業務執行を行っています。また、総代会で選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行っています。

組合の業務執行を行う理事は、組合員の代表者からなる役員候補者推薦会議の決定を経て、公正に選任されております。また、信用事業については専任の担当常務を置くとともに、農業協同組合法第30条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

4. 事業の概況（令和7年度）

世界的な情勢不安や円安の進行を背景に物価上昇が続き、生産資材や燃料費、物流コストの高騰が農業経営や地域経済に大きな影響を及ぼしています。加えて、米を巡る需給・価格動向は依然として不安定であり、消費構造の変化や在庫動向への対応も求められています。さらに、金利上昇により金融環境も大きく変わり、事業運営における資金戦略の見直しが求められています。

そのような中、総合事業体として機能を発揮していくためには、JA自らが環境変化に対応し、将来にわたって持続可能なJA経営基盤を確立・強化していく必要があります。

こうした状況において、当JAでは、令和5年度から「安心」「笑顔」「つながり」をキーワードに第9次中期経営計画の実践に努めてまいりました。

営農経済事業では、担い手の増加や栽培面積の拡大を通じて、農業生産の振興を図るとともに、有利販売や直売所を通じた販売力の強化を行い、また土壌分析支援事業の推進強化による農業者の生産コストの低減に努め、農業者の所得増大を図りました。

金融共済事業においては、トータルアドバイザーによる相談会やセミナーの開催、ならびに金融共済渉外担当者の育成を通じて、出向くワンストップ型の相談体制を強化し、組合員や利用者の多様なニーズに応えてまいりました。あわせて、休日訪問や各種イベント、3Q訪問・3Qコールを実践することで、若年層を含む幅広い世代との接点を拡大し、地域における安心と信頼の向上に努めました。

経営面については、将来的な金利上昇リスクを早期に排除し、次年度以降の安定経営を確立するため、有価証券の一部（超長期債券）を売却しました。その結果、当期は赤字決算となり、利用高配当の還元が出来ません。その一方で、ポートフォリオのリスクは大幅に軽減され、将来にわたる経営健全性の向上を図るための重要な転換点とすることができました。

内部管理態勢の強化としては、各業務手続きの見直しや改善に取り組むとともに、役職員一丸となってコンプライアンスの徹底に努めてきましたが、このたび共済事業において、意向確認義務違反などの不祥事が発生するという事態を招き、組合員・利用者の皆様に多大なるご心配をおかけしました。今後は内部管理体制のあり方を抜本的に見直し、再発防止策を徹底することで、信頼の回復に全力を尽くしてまいります。

決算の結果、事業損失は12億67百万円となり、経常損失は9億57百万円、当期損失金は6億75百万円となりました。このため、信用事業基盤強化積立金を11億25百万円取り崩し、当期末処分剰余金については9億13百万円となりました。

1. 指導事業

(1) 営農指導

営農インストラクター設置と各営農経済センターの営農渉外担当者による出向く営農指導体制の強化に努めました。また、JA兵庫南自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を実現するため、農業者支援策をはじめとする以下の生産振興に取り組みました。

①農業者支援策

- ・兵庫県が実施する農業施設貸与事業では、新規就農者等のハウス建設費用の助成を行い、5件16棟の利用がありました。
- ・JA兵庫南独自の土壌分析支援事業では、水稻・野菜の作付生産者を中心に293件の土壌分析結果に基づいた施肥提案指導を実施しました。
- ・農業労働力確保に向けた農福連携では、農業者と福祉事業所とのマッチングが3件成立しました。また、援農ボランティアでは、登録者33名で23回の農作業支援を行いました。
- ・農業者の労働力不足解消に向け、農業求人サイトの運営に取り組み、サイトへの求人掲載12件に対して、延べ96名の応募がありました。
- ・農業者のための労災保険特別加入制度では、特定農作業従事者・指定農業機械作業従事者の労災加入を7件（営農組合3件、個人4件）受け付けました。

②米・麦・大豆の作物ごとに栽培講習会や圃場巡回を行うとともに、生育管理の徹底と適期作業の指導を行いました。また、環境創造型農業への実践として、農業に頼らない水稻栽培試験を完了しました。

③野菜出荷は、異常気象に伴う作付面積の減少で苦境にある中、適期収穫の指導を行い、農家所得の向上に努め、キャベツ37.5ha、ブロッコリー8.5ha、スイートコーン10.9haが作付けされました。

④地域ブランド品（スイートモーニング、清水いちご、志方いちじく、いなみ野メロン）については、営農渉外担当者による計画的な訪問活動を実施し、栽培技術に関する情報提供や適期出荷の指導を実施しました。併せて、ECサイトを活用した高付加価値販売や地元企業への販売斡旋を行い、有利販売体制の構築に取り組みました。

⑤ふぁ～みんSHOP・にじいろふぁ～みんへの生産物のお荷量増加及び品質向上に向けて、野菜や果樹の栽培講習会を5回開催し、延べ85名の参加がありました。また、ふぁ～みんSHOPの出荷者を対象とした農薬の安全使用講習会を9回、加工品の出荷者を対象とした加工品の講習会を1回開催し、生産者の知識習得の機会を設けました。職員向けについては、HACCP等の研修会に延べ12名参加し、食の安全・安心に対する意識向上に努めました。



いなみ野メロン箱詰め講習会



志方いちじく目合わせ会



コノホシ栽培検討会

(2) 生活指導

組合員および地域住民の皆様との連携強化を通じ、農業やJA事業への理解促進に努めました。

「支店・事業所ふれあい活動」においては、地域の学校やこども園と協力し、稲作やさつまいも栽培等の食農教育を展開しました。各支店・事業所が主体となり、地域に根差した多様な活動を企画・実践しました。

食農教育の一環として開催した小学生対象の「ちゃぐりんスクール」では、18名の参加者が米や野菜の栽培、料理教室を体験し、農業への関心と理解を深める機会となりました。

JA女性会活動においては、新たに6グループが加わり、計122の目的別グループが活発に活動を展開しました。また、「SUGOJYO総踊り大会」「女性会フェスタ」による会員間の親睦促進に加え、他県のJA女性組織協議会との意見交換会を実施するなど、交流の幅を広げました。

健康増進活動については、町ぐるみ健診を2会場で実施し、食生活改善の啓発および疾病の早期発見・早期治療の推進に努めました。健診後の説明会や事後指導のほか、健康セミナーや出荷者向け3B健診を実施するなど、組合員の健康維持に取り組みました。

学習広報活動においては、女性組合員向けの「レディースカレッジ」、男性組合員向けの「男ディカレッジ」を開講しました。教養の向上と生活の充実を支援するとともに、食農教育を通じた農業および地域社会への理解促進に取り組みました。



ちゃぐりんスクール



SUGOJYO 総踊り大会



女性会フェスタ



男ディカレッジ ヨガ教室

2. 販売事業

令和7年産米については、米の不足感、価格高騰の影響から作付け意欲が向上し、主食用米の出荷数量は2,706トン（前年対比115.5%）となりました。

麦類については、生育期に遅れがあったものの、収穫期の天候にも恵まれ、平年に比べ大きく収量が増加し、大麦の出荷数量は1,678トン（前年対比158.1%）、小麦の出荷数量は314トン（前年対比110.4%）となりました。

また、農業者が意欲をもって営農に取り組めるよう、引き続き営農活性化特別支援対策を実施しました。稲作への支援では、令和7年産米の出荷に対して、30kgあたり450円、麦作への支援では、令和7年産麦の出荷に対して、30kgあたり60円の支援を実施しました。

白大豆については、米への作付転換等で作付面積が減った中、生育中の雨量の少なさから湿害等の発生も少なく、平年の収量に比べ大きく増加したため、出荷数量は673袋（前年対比155.7%）となりました。

青果販売については、異常気象などの環境要因や水稻への作付転換により作付面積が減少しましたが、単収の向上により、野菜指定産地品目（キャベツ、ブロッコリー、スイートコーン、レタス、トマト）の出荷量は、合計1,612トン（前年対比109.9%）と前年を上回りました。一方で前年度の価格高騰の反動による市場単価の下落により、販売高は1億4,439万円（前年対比58.4%）となりました。

ふぁ～みんSHOP・にじいろふぁ～みんについては、夏場の異常気象により、生産物への影響が顕著であったため、秋冬野菜の価格下落等があり、販売高は16億4,180万円（前年対比96.1%）となりました。

畜産販売については、物価上昇の影響による供給調整や経済要因による需要変動を受け、枝肉単価は4,199円（前年対比92.6%）とやや下落し、販売高は5億4,265万円（前年対比92.3%）となりました。



いなみトマト祭り

3. 購買事業

生産資材については、生産コストの削減および農産物の品質向上を目的として、以下の取り組みを行いました。

- ①肥料価格の抑制を図るため事前予約を実施し、全国集約銘柄「国産高度化成444」を2,619袋、兵庫県独自の取組銘柄「JA園芸化成S500」を378袋、JA兵庫南の重点取組銘柄「JA兵庫南化成48号」を8,373袋供給しました。
 - ②健全な土壌環境づくりによる農産物の品質向上を目指し、地域資源を活用した「ケイカル・転炉さい」の利用を推奨するとともに、環境保全型農業の推進に取り組みしました。
 - ③営農組合や大規模農家などの担い手農家に対して、大型規格や大型直送規格の農薬を推奨し、生産コストの低減につながりました。
 - ④営農組合や担い手農家等を中心にJAグループ兵庫推奨トラクター（25馬力）を2台供給しました。
 - ⑤近隣のホームセンターの肥料・農薬の小売価格を定期的に調査し、価格設定の参考としました。
- また、予約申込を中心に「引き取り値引」及び売り出し時には「持ち帰り値引」を設定し、農家の生産コスト軽減に努めました。

生活購買については、シロアリ防除・住居リフォーム等の普及活動を行いました。また、各営農経済センターおよび支店において「聞こえの相談会」を実施しました。



ケイカル・転炉さい



農機センター 大展示会

4. 保管事業

低温農業倉庫については、主にふぁ～みんSHOPで販売する直売米及び全農に販売する大麦等を保管しました。室温や穀温の管理とともに、ネズミ等の被害が出ないように粘着トラップを数か所に配置し、品質管理に努めました。また、定期的に倉庫内の燻蒸処理を実施することで虫等の発生の予防に努めました。

5. 加工・利用事業

令和7年産米の荷受重量は、価格高騰の影響による作付面積の拡大や全国的に豊作傾向も相まって施設利用が増加し、5,908トン（前年対比118.5%）となりました。

麦類についても、収穫期の天候にも恵まれ、大麦の荷受重量は1,943トン（前年対比157.7%）、小麦の荷受重量は357トン（前年対比110.1%）となりました。

水稻苗の出荷数量は稚苗57,837箱、成苗60,787箱の合計118,624箱（前年対比108.6%）となりました。

野菜苗の出荷数量は277万本（前年対比96.2%）となりました。

加工事業では、地元産白大豆を使用した豆腐を中心に厚揚げ等の加工品を販売するとともに、お客様の需要に合わせ、惣菜コーナーでは地元産野菜を使用した商品、管内産のお米を使用したおにぎり等の新商品を増やすことで品揃えを強化しました。カフェコーナーでは季節限定商品を提供することで販売強化に努めました。

また、大麦関連商品の「米粒麦（べいりゅうばく）」、米粉関連商品の販売PRに努めました。

主な加工品の取扱高は、豆腐1,161万円（前年対比98.4%）、惣菜2,530万円（前年対比116.9%）となりました。



大麦商品



米粉商品



にじいろふぁ～みん、お惣菜（おにぎり）

6. 農業経営事業

にじいろ農園では、サツマイモ収穫体験や景観作物（ネモフィラ、コスモス、ひまわり）の栽培を行い、多くの来場者に喜んでいただきました。

にじいろ果樹園では、ぶどう・ブルーベリーを栽培し、ふぁ～みんSHOP・にじいろふぁ～みんでの販売や「カフェコーナー」での食材として活用しました。

新規就農育成ハウスでは、兵庫県楽農生活センターと連携し新規就農者の受入を行い、栽培から出荷までの一括サポートによる新規就農者の就農支援を行いました。

7. 信用事業

市場や環境の変化を見据え、組合員・利用者のニーズに寄り添った取り組みを実施しました。出向くワンストップによる相談活動で組合員・利用者の利便性を高めるため、金融共済渉外担当者の育成を図りました。JAトータルサポートセンターを活用し、組合員・利用者の多様なニーズに応えるサービスの提供に取り組むとともに、環境の変化に対応し投資信託及び融資の事務管理体制の充実に努めました。またモニタリング体制の強化による事務処理の適正化、不祥事や不適切な契約の撲滅に向けた教育・研修を実施しました。

持続可能な経営を実現するため、収益性の確保および組織基盤の強化を重要課題と位置づけ、以下の8点に取り組みました。

- ①安定した資金調達のため年金・給与振込者の増加に取り組みました。
- ②組合員・利用者からの多様なニーズに対応できる職員の育成を図り、相談・ニーズに添った提案活動に取り組みました。
- ③インターネット・ATMの活用を案内し利用者の利便性を高め、支店窓口ではスマイルナビ（タブレット）を活用し業務の効率化を図りました。
- ④住宅ローンを中心とした貸出金残高の伸長と、ネットローンの普及による小口ローンの取り扱い件数増加に取り組みました。
- ⑤農業融資に関する相談機能を強化するとともに営農渉外担当者と連携し、農業資金のニーズ喚起を行いました。
- ⑥事務の指導強化、管理及びコンプライアンスの徹底に取り組み、事務リスク軽減と事務の堅確性向上を図りました。
- ⑦JAトータルサポートセンターの認知拡大に努め、組合員・利用者への相談業務に取り組みました。
- ⑧コンプライアンス勉強会等を活用し内部統制の整備・運用に努め、事務リスク軽減と事務の堅確性向上を図りました。



JA トータルサポートセンター明石



JA トータルサポートセンター加古川

JAトータルサポートセンター（明石・加古川）

営業時間：月～金… 9：30～17：30
土・日…10：00～17：00

休 日：水曜・祝日

取扱い業務

相続相談・ローン相談・資産運用相談・共済の相談・成年後見制度の相談
不動産の有効活用・専門家への取り次ぎ等

8. 共済事業

(1) 長期共済

『3Q活動※』によるアフターフォローと公的保険制度を踏まえた総合保障点検の取り組みで「安心」と「満足」をお届けするために、組合員・利用者とのコミュニケーションを活発に行いました。

渉外活動では「ひと・いえ・くるま」の共済総合保障と信用事業を含めた渉外体制によるワンストップサービスを実施し、組合員・利用者の利便性向上に取り組みました。

建物共済JA審査員および自然災害損害調査員の増員、緊急時対応マニュアルを作成し、大規模自然災害等における損害調査体制の構築を図りました。

また、コンプライアンスに対する教育・研修を行い「組合員・利用者本位の業務運営」に取り組みました。

※ 3Q活動とは、加入世帯のご家族の近況や共済金の請求漏れの確認と併せて、将来の備えについて保障点検を行うことです。

(2) 短期共済

くるま分野では、新規契約については定期的に「自動車見積キャンペーン」を実施し、他社加入情報収集による新規契約の拡大に取り組みました。継続契約については早期に案内し、グレードアップによる保障充足に取り組みました。

9. 経営管理

(1) 経営管理

地域の農業者や担い手の減少に伴い、正組合員数も減少傾向にあります。そのような中、当JAでは准組合員を正組合員と共に地域農業を支える重要なパートナーと位置づけ、その意見を運営に反映させる方針をとっています。そのため、支店別総代懇談会や利用者懇談会の開催、常勤役員による担い手農家訪問などを通じ、正組合員および准組合員の声を経営に活かすべく取り組んできました。

支店別総代懇談会においては、持続可能な地域農業の発展と経営基盤強化を目指す「営農経済事業の成長効率化プログラム」の進捗状況や、「貯金特化型店舗」への移行等について説明し、いただいた貴重なご意見については、令和8年度以降の施策へ適切に反映させるべく検討を進めてまいります。

また、組織基盤強化に向けた組合員拡充活動については、正組合員、女性正組合員、准組合員それぞれに目標を設けて加入促進に取り組んだ結果、組合員数は1,435名増の67,374名となりました。

(2) 広報

組合員向けの広報誌「ふぁ～みん」や地域コミュニティ誌「ぶちふぁ～みん」では、組合員や生産者・利用者の皆様の声に寄り添い、役立つ情報提供を届けることに努めました。広報誌「ふぁ～みん」では、作る人・食べる人をつなぐ架け橋となる誌面を目指し、旬の農産物を紹介する「四季旬菜」コーナーと動画を連動させる工夫をしました。こうした取り組みが実を結び「総合の部」「組合員向け広報誌の部」でJA兵庫中央会より奨励賞を受賞しました。また、組合員や地域住民との関係をより深めるため、地域に密着した情報と職員の紹介などを掲載した「支店事業所だより」を通じて、職員の顔が見える身近な関係づくりにも取り組みました。

JA兵庫南の旬な情報をいち早くお届けできるよう、ホームページやInstagramでの情報発信に力を入れました。Instagramでは、より親しみをもていただけるよう新企画として直売所の職員による商品紹介などを実施しました。

ラジオ関西の番組のコーナー「谷五郎のこんにちわ ふぁ～みん」（毎週日曜日11:00～）では、JAの各事業の紹介を中心に、生産農家や青壮年部、女性会の皆様にご出演いただき、JA兵庫南の取り組みを親しみやすく発信しました。

(3) 地域貢献活動

「ふぁ～みん食農教育支援金」を通じ、管内の学校や地域団体による食農教育を幅広く応援しました。令和7年度は、新たに6つの団体を加えた71団体へ306万円を助成し、延べ16,000名の方々に参加いただきました。この活動を通じて、食の大切さや農業の役割、地域の食文化について学び、次世代の成長を促す機会を支援しました。

高齢者見守り活動では、地域の皆さまが安心して暮らせるよう、組合員や住民の方々の異変にいち早く気づき、緊急時には警察や消防へ迅速に連絡する体制を整えています。また、支店ふれあい委員やJA女性会、JA役職員が協力し、公共施設や各事業所の周辺で地域清掃活動に取り組みました。

(4) 人事・教育

令和7年度は、地域の組合員に寄り添った幅広い相談業務に対応するため、担当職員には連合会・行政等が主催する研修会・各種検定・資格試験への参加を積極的に推奨しました。また、涉外トレーナーを全支店、ローンプラザ、経済本店に配置し、涉外担当者の技術面、精神面のサポートを行い、その成長を促しました。さらに女性涉外担当者を継続して配置し、将来を担う女性管理職層の育成にも努めました。

令和7年度の女性育休取得者は6名、男性育休取得者は3名となり、子育て世代が働きやすさを実感できる職場環境の整備に注力しました。全職場で1on1ミーティングを導入し、風通しのよい職場環境づくりと各認証制度取得に積極的に取り組みました。9月には厚生労働省の「トライくるみん」、12月には当組合の各サポーター制度が先進的な取り組みと評価され、県下JAでは初めてとなる「ひょうご仕事と生活の調和推進表彰企業」を受賞しました。さらに3月には「明石市高齢者応援企業」「あかし子育て応援企業」の認定を受けました。

サステナビリティに関する取り組み

項目	令和7年度実績	目標	備考
正職員新規採用数	20名 (男性10名、女性10名)	10名以上の採用	—
新卒3年以内離職率	9.5%	10%以内	全国平均33.8%※1
障がい者雇用率	2.9%	2.5%以上	令和7年度法定雇用率2.5%
管理職の女性比率	8.4%	令和12年までに 15.0%以上	全国平均13.1%※2
正職員男女の 給与比率	女性89.2%	女性80%以上	全国平均女性75.8%※3
男女別育児 休業取得率	男性30.0% 女性100%	男性50%以上 女性100%取得	全国平均男性40.5% 女性86.6%※2
育児休業後の復職率	男性100% 女性100%	男性100% 女性100%復職	全国平均男性97.3% 女性93.2%※2

※1 厚生労働省 新規学卒者離職状況（令和7年10月公表）

※2 厚生労働省 令和6年度雇用均等基本調査

※3 厚生労働省 令和6年度賃金構造基本統計調査

（5）内部監査

JA兵庫南の事業経営目標の達成と健全かつ継続的発展に役立つことを目的に、不正・不祥事防止態勢・内部統制の整備状況に重点を置いた監査を実施しました。また、問題点の発見・指摘にとどまらず、業務の有効性・効率性向上に役立つ措置提案に努め、必要に応じて監査実施先だけでなく本店指導部署への措置提案も行いました。

（6）コンプライアンス（法令遵守）

コンプライアンス・プログラムの実践によるガバナンスの強化・利用者保護管理体制の徹底・内部牽制機能の強化・危機管理体制の整備に取り組むとともに、不正・不祥事防止体制の強化及びマネー・ローンダリング等金融犯罪対策に関する取り組み強化に努めました。これに加え、令和7年度に発生した不祥事を踏まえた再発防止策を策定し実施しました。



事業活動のトピックス（令和7年度）

4月

- 1日 入組式
- 1日 みのり監査法人監査 期末Ⅰ
- 6日 にじいろふぁ～みんで「いなみトマト祭り」開催
- 17・18・21日 期末監事監査
- 22・24・25日
- 19日 JA兵庫南グループスタートダッシュ大会を開催
- 24日 第27回JA兵庫南女性会総会
- 26日 にじいろふぁ～みんで「六条大麦フェス」開催
- 30日 みのり監査法人監査 期末Ⅱ



入組式



JA 兵庫南女性会

5月

- 1・2・7・8日 みのり監査法人監査 期末Ⅱ
- 2日 管内小学生たちが農協施設を社会科見学
- 9日 渉外担当者決起大会（加古川プラザホテル）
- 18日 「にじいろミュージックフェスティバル」を開催



農協施設の社会見学



じゃぐりんスクール開校

6月

- 16～19日 総代会事前説明会
- 21日 じゃぐりんスクール開校式
- 22日 第10回「JA 兵庫南組合長杯」小学生ソフトボール大会
- 23・24日 スイートモーニング・いなみ野メロン販売開始
- 28日 第26回通常総代会
- 29日 第19回「JA 兵庫南ふぁ～みん杯」ソフトボール大会



通常総代会



ふぁ～みん感謝祭

7月

- 1日 「1on1ミーティング」を開始
- 1日 「野菜ウニ」試食会
- 8日 第1回JA利用者懇談会
- 10日 二見支店で「町ぐるみ健診」開催
- 26日 いなみ朝市38周年記念大売出しを開催
- 30日 職員向けの共済仕組み勉強会開催



利用者懇談会

8月

- 6日 第2回JA利用者懇談会
- 7日 じゃぐりんスクールで加古川和牛ツアー開催
- 7日 鉄鋼スラグを利用した土づくり勉強会
- 12日 特産品「志方いちじく」が初出荷
- 13日 第10次中期経営計画策定会議
- 21日 ふぁ～みん感謝祭（稲美会場）開催
- 31日 「JA 兵庫南組合長杯」高砂市スポーツ少年団軟式野球大会



SUGOJYO 総踊り大会

9月

- 2日 JA女性会SUGOJYO総踊り大会
- 4日 ふぁ～みん男ディカレッジ開講式
- 8日 第3回JA利用者懇談会
- 9～12日 みのり監査法人監査 期中Ⅰ
- 16日 二見支店デジタルサイネージ除幕式
- 17日 ふぁ～みんレディースカレッジ開講式



二見支店
デジタルサイネージ除幕式

9月

- 18日 神野支店で「親子金融教室」を開催
- 25日 厚生労働大臣より「トライくるみん」認定

10月

- 7日 JA女性会本部役員と常勤役員の懇談会
- 8日 第4回JA利用者懇談会
- 17日 東播磨地域43試験区の水稲収量調査を実施
- 20～24日 上期監事監査
- 28日

11月

- 1～30日 にじいろふぁ～みん「10周年祭」を開催
- 5日 ふぁ～みんSHOP 魚住リニューアルオープン
- 7日 第5回利用者懇談会
- 8日 ふぁ～みん祭り（明石播磨ブロック）
- 16日 ふぁ～みん収穫祭（加古川ブロック）
- 22日 総代研修会
- 26日 ふぁ～みん祭り（高砂ブロック）
- 28日 役員コンプライアンス研修会

12月

- 1日 県内JA初「ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰」受賞
- 10日 近畿地区JA青年大会
- 18日 「東播磨地域大麦生産者大会」を開催
- 19日 「水稲乾田直播栽培研修会」を開催
- 20日 ちゃぐりんスクール閉校式
- 24日 ふぁ～みんSHOP魚住にてロッカー型自販機設置
- 25日 県との意見交換会

1月

- 9日 「農地法研修会」を開催
- 13日 営農渉外研究発表大会
- 15日 第6回利用者懇談会
- 28日 女性会フェスタ・全国家の光大会

2月

- 5日 ふぁ～みん男ディカレッジ閉講式
- 5・6・9日 みのり監査法人監査 期中Ⅱ
- 9・10日 支店別総代懇談会
- 12・16日
- 12日 第7回JA利用者懇談会
- 20日 ふぁ～みんレディースカレッジ閉講式
- 24日 兵庫県JA営農指導員発表大会

3月

- 4日 JA青壮年部とJA幹部が語る会
- 11・12日 みのり監査法人監査 期中Ⅲ
- 14日 組合員協同セミナー
- 25日 天満支店竣工式（グランドオープン）
- 30日 役員コンプライアンス研修会



水稲収量調査



にじいろふぁ～みん 10周年



ふぁ～みん収穫祭
(加古川ブロック)



総代研修会



ロッカー型自販機



女性会フェスタ



JA 利用者懇談会



組合員協同セミナー